

平成30年度第2回 江の川水系（下流）大規模氾濫時の減災対策協議会 議事概要

1. 日 時 : 平成30年11月5日（月）10:00～11:30

2. 場 所 : 浜田河川国道事務所 2階 第1会議室

3. 出 席 者

（協議会構成員）

江津市 : 江津市長
川本町 : 川本町長
美郷町 : 美郷町長（代理：総務課 課長補佐）
邑南町 : 邑南町長（代理：副町長）
島根県 : 防災部長
島根県 : 土木部長（代理 河川課長）
気象庁 : 松江地方気象台長
国土交通省 : 浜田河川国道事務所長

（オブザーバー）

島根県 : 浜田県土整備事務所（統括調整監）
島根県 : 県央県土整備事務所（統括調整監）
中国電力(株) : 東部水力センター（東部水力センター所長）
国土交通省 : 三次河川国道事務所（灰塚ダム管理支所長）
国土交通省 : 土師ダム管理所（土師ダム管理所長）

4. 議 事

（1）平成30年7月豪雨について（フォローアップ含む）

5. 議事結果

平成30年7月豪雨（①7月豪雨の概要、②ダムについて、③河川及びダムの事業効果、④平成30年7月豪雨における課題と対応）について協議会構成員ならびにオブザーバーと意見交換を行うとともに、今後のスケジュールについて協議会に諮り、協議会構成員の賛同をいただいた。

6. 意見交換概要

①平成30年7月豪雨の概要

特に意見無し。

②ダムについて

【川本町長】

浜原ダムは利水ダムのため洪水調節機能が無いとの説明であったが、上流の雨量をデータで

把握している中、事前にダムの貯水位を下げる操作をしたのか。また、浜原ダムが洪水調整機能を持たないのは、構造的な理由からか。

【中国電力株】

7月5日の段階では、(標高)64mぐらいのところでは洪水の予測がされていたので、操作規程に示す最低水位(63m)まで降ろして洪水を迎えている。また、浜原ダムは利水ダムとして設計されているものなので、構造上洪水調節機能は持っていない。

【川本町長】

7月5日は、マニュアルに則って貯水位を下げたという事だが、どのくらい下げたのか。

【中国電力株】

操作規程上、2mの水深、標高で言うと63m~65mであるが、最初は(貯水位が)64m付近にあったので、気象条件等を見ながら既に洪水が来ると予測をしたので、操作規程に基づき最低水位(63m)まで落とした。

【川本町長】

操作規程では一定の水位(最低水位63m)と定めがあるかもしれないが、こういう緊急事態においては操作規程が適正なものかどうか、今回の事象を以て検証されているのか。

【中国電力株】

洪水を助長させないと言うのが河川法上の利水ダムの役割だと思っている。洪水時の流入量相当を放流するという操作規程になっており、現在もこの規程で運用している。また、違った形の運用については、仮定の質問となるため差し控えさせていただきたい。

【事務局】

河川を管理する国土交通省としては、浜原ダムの貯水容量に対して江の川の流域がかなり大きく、仮に浜原ダムが洪水を調節するというようなことがあったとしても治水効果は極めて限定的になると考えている。

【江津市長】

灰塚ダム、土師ダム、浜原ダムの各ダムは、マニュアル通りに適切に運用し、効果はあることは確認できた。これだけの水害が起こっている中、ダム操作についても、今は気象条件が大きく変わり、降雨予測も相当進歩している。マニュアルを作った当時とは情勢が変わっており検証が必要である。流域住民には根強い不信感があるのは事実であり、検証した結果、現在のマニュアルでの運用が最も適切となったとしても、それはそれでよいと思う。特別防災操作をもう少し見直す余地はないのか、利水容量を予め事前に減らしておく等と言ったことを今一度検証すべきではないかと思っている。国土交通省は全国のダムを検証すると言っているので、中国地方整備局あるいは浜田の事務所において是非検証していただき、過去のことでなく、

これからの対応という点で検証を進めていただきたい。

【美郷町】

土師ダムと灰塚ダムの放流について、ダムの仕組み上の話をさせていただいたが、下流の水位の山が2つ3つの山があったという事を考えると、土師ダムの放流の仕組みも、先程の江津市長の意見の通りである。「(山が)フラットになっていたらどうなっていたのか」など庁内の協議を踏まえ、是非検証をしていただきたい。

【浜田河川国道事務所長】

地域が目線で考えると、やはり万全を期した操作の運用を「見える化」して行くと言うことが必要であると思う。各事象局面について賢く柔軟な運用を図っていく。もう少し深掘りしながら、出来るところはないかという立ち位置で検討を深めていくことは必要と認識している。

【土師ダム管理所長】

美郷町さんのご意見に対して補足説明をさせて頂く。通常操作では、洪水のピークの後はピーク流入時の放流量でフラットに放流することが操作規則上のルールであるが、今回の洪水では、放流量を絞る操作を2回行い、本来のルールにはない更なる洪水調節効果を上げる操作を行ったという事をご承知置きいただきたい。あと検証の話については、異常洪水時防災操作を行ったダムもあり、課題の検証等を本省レベルで進めている。ダム操作については、その検証結果等を踏まえ、何か出来ることがあれば対応していくことになろうかと思っているので、このような動きがあることをご承知置きいただきたい。

【江津市長】

利水容量を予め減らしておくことが出来るのか。あるいは予測精度が向上してきているので、特別防災操作を後ではなく前に行う事は出来るのか。

【土師ダム管理所長】

予め水位を下げておくという議論は以前からある。多目的ダムの場合、利水容量を持っているので、予め放流してポケットを空けておく意見はある。実際に行うためには、「利水者の理解」と「流入量の予測精度向上」が必要であり、仮に水位を下げたが回復しなかった場合どうするのかということも議論になる。降雨の予測精度は向上しているが、完璧な予測が出来ないのが実情である。全国的に議論されている結果を踏まえ出来ることがあればやっていくことになろうかと思う。

【浜田河川国道事務所長】

浜原ダムは構造的に洪水調節機能を持たせる事は困難ということであったが、ダム操作の運用による洪水調節機能に関する検証を進めていきたい。

【事務局】

現状の運用方法の見直し等、検証をおこなって頂きたいとの意見が多数ございますので、どのような方法で何が出来るのかという事も含め少し考えていきたいと思う。

3. 平成30年7月豪雨を踏まえた課題と対応案

【江津市長】

タイムラインの見直しは良いことである。現在のタイムラインのとおり、越水してから避難指示(緊急)を出すタイミングが遅く、大変な事になるので、先を見越して早めに出していくべきである。

この協議会で(意見を)出し合って、この地域に見合った柔軟に独自のタイムラインを作っていけば良いと思う。

【浜田河川国道事務所長】

気象情報や降雨強度等の予測はかなり確度は高くなっており、先が読めるようになった。今回をふり返ると、リスクを先読みし次の行動を考え、多様な機関の相互連携ならびに情報共有していくことは地域にとって非常に有用である。多機関連携タイムライン作成にあたり、関係機関の方にはご支援、ご協力をお願いしたい。

【江津市長】

例えば、道路の通行止めの情報は、管理者毎で情報提供されているが、情報を一つに集約し、情報を共有して欲しい。

【浜田河川国道事務所長】

島根県では過年度からホームページ上で規制情報を公表しているが、公表情報はタイムラグがあるため、適切な防災業務を行うには、各組織の担当者がリアルタイムな情報を共有することが欠かせないと認識している。